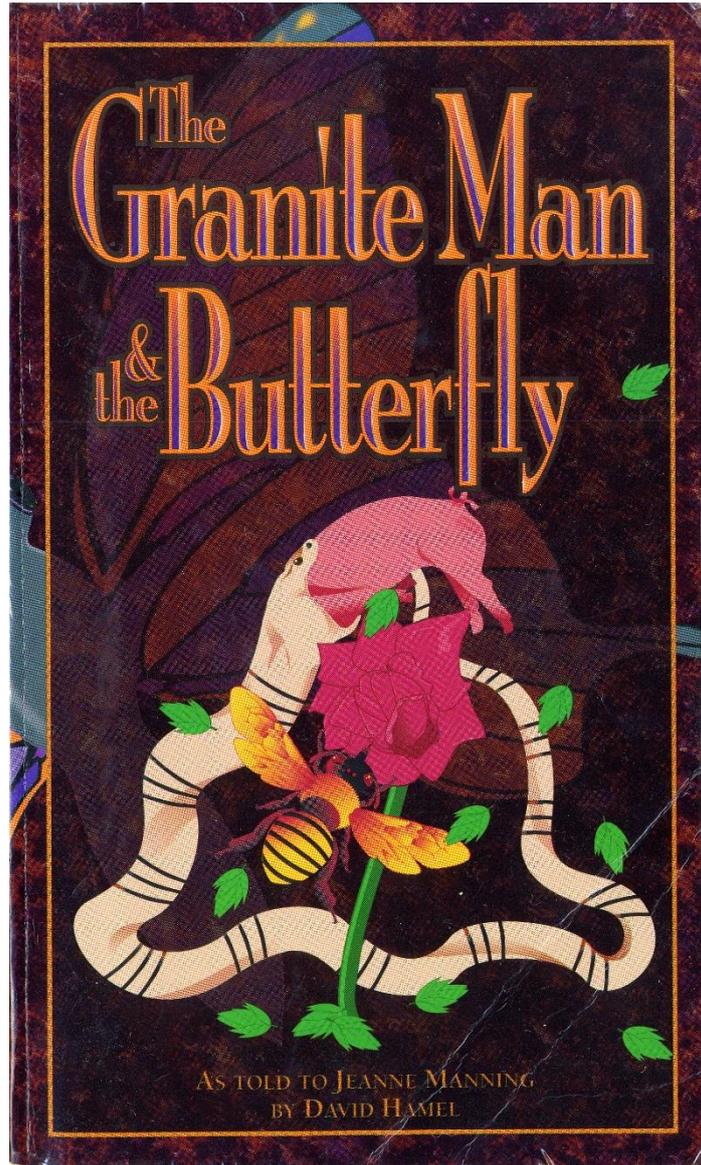


真実の人生の冒険

花崗岩の男と蝶



ピエール・シンクレアとジーン・マニング著
ピエール・シンクレアと共同執筆された

プロジェクトマグネット会社 (incorporation)

第 6 章 神秘的な木の葉

メイプルリッジの喫茶店に腰かけたデイビッドはそわそわしていた。

彼女は50代の活発で精力的なウェイトレスだが同情的な顔つきでコーヒー注ぐために彼に接近したので、彼の顔に精神的な動揺が見えたにちがいがなかった。

彼女は喫茶店を所有し、長い間この通常親切な顧客を見てきた。

「どうしたの、ハーメル？」

私は、あなたが仕事をやめるというのを聞いた。」「私は、もっと大きな仕事を持っている。」、彼は手で頭をかかえた。

「それについては話すことができない。」

彼女はコーヒーポットを下ろして、細い前腕をカウンターの上にもたれかからせた。

「私に言いなさい。」「昨晚何があったか誰も信じるはずがない」と、デイビッドがつぶやいた。

しかし、彼が見上げたとき、彼女の表情は彼に話すよう訴えていた。

彼女の目は、長年の顧客に対する本物の尊敬を持っていた。

まるでそれが彼の目の前で起こっているように心の中にある新しい経験と、Aとアルカンについて彼女に話した。

彼は、彼らがテレビを通してどのように現れたか、そして、彼がどのように軽くなった体で天井を通りぬけて持ち上げられ、宇宙船に連れて行かれたか述べた。

彼がそれを話し終えたとき、ウェイトレスは一番近くの椅子に座っていたが、一度として、身じろぎもしなかった。

「彼らは、空飛ぶ円盤を造るように言ったの？」

彼女の目は、驚きで大きく開いていた。

「行かなければならない。」

今日、私は銀行にまっすぐ行って、2,500ドルを借りた。

私は磁石を買えるところへいかなければならない。」

ゆっくりと、彼女は立ち上がった。そして、これからどうなるかよく見ようとして懐疑的にじっと見つめた。

多くの人は、聞く人が彼女か彼の現実の見方を変えねばならないので、本当に何か経験したと信じることを最も、嫌う。

彼の経験を鮮明な夢として否定するのは、簡単である。

デイビッドが喫茶店から車で走り去ってから、彼は行動の計画を考えた。

最初はエネルギー装置の小さなモデルを製造しなければならない。そして、徐々に、どのように推進力と船のエネルギーを発生させる原則を構築すべきか理解する。



彼はその日から、それが簡単でないことを知っていた。

しかし金物屋で材料を買い、町のダンプからスクラップ材を探し出し彼は磁石で実験を開始した。

どうも船に乗った 3 人の人々が彼の心に考えを与えて作業を助け、後押ししているのを感じた

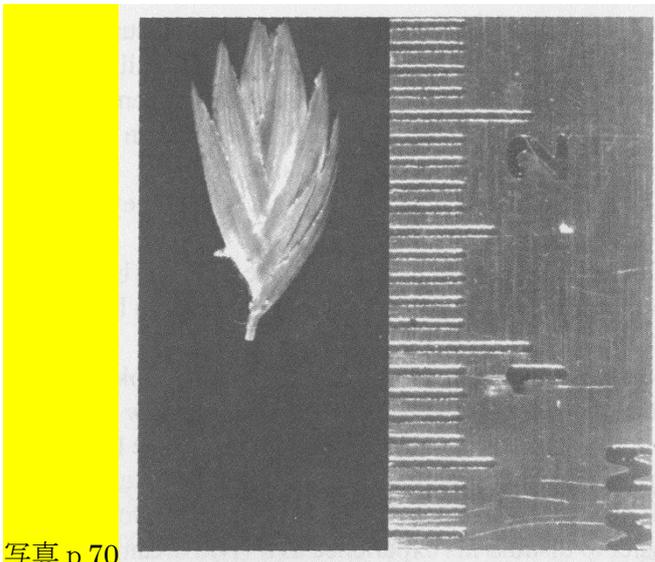


写真 p 70

これは、ノラの回りと、家の奇妙な場所でノラとデイビッドが見つけた多くのうちの 1 枚の葉の写真である（花芽）。

この本が書かれたとき、ブリティッシュ・コロンビア（UBC）大学の植物学学部長 Dr.Gerald Strayley によってこの花芽は分析された。

花芽の調査の後、彼は結論した、「18 年前の古い花芽なのに、この花芽は、異常に緑である。

これは、ブリティッシュ・コロンビアでは自然に育たない、

しかし、ブリティッシュコロンビアでそれを栽培することは、可能である。

植物の葉が 2 枚の紙の間に押され、そっとしておかれると長い間緑のままであることができる。

だがデイビッドとノラによって見つかったこれらの花の芽についての面白い面は、彼らが紙の間に決して押されなくて、秘密にしておかれなかったということである。

これらの花に最も近い類似は、*Uniola Latifolia Michx* である。

この植物に関する情報は、少しは役に立つ植物学本で見つかることができる。

この本が出版されていて、植物はオタワ（適当な識別と化学分析のためのカナダ）の研究所でテ

ストを受けている。

うまくいけば、我々は第 2 の本にこの分析の結果をもたらす。

71

彼はそのとき、彼のしなければならぬ、1 歩に行くことだけだった、

そして、彼らは彼らがある時どこにいるかについて、彼を案内する。

彼は、船の力をつくった巨大な円錐のアンバランスにされた転回運動を再現しようとした。

彼は最初は、磁石なしでそれを再現した。

それから、彼は 2 本のシャフトをクロスさせクロスが磁場で浮く方法を学んで、示すことに挑んだ

それは彼が働いている力についての学習の全てであった。

彼の心で彼が飛んだ宇宙船のあらゆる詳細を描いて、何が働いているか理解しようとした。

デイビッドは、多くの紙に図面を書いた。

「あなたは、磁気の流れについて学ばなければならない」と、彼は内部の印象によって話された。

「磁気の流れを学びなさい。」、デイビッドは磁石と金属の異なる組合せであそんだ。

彼は、円錐の内部にある円錐を覚えていた

彼が小さなアストラル体である時に、その強力な旋風を引き起こす作動を、見て、感じていた。

彼は 1 インチのドーナツ形の磁石をつないで、アルミニウムで円錐を作った。

彼は、実験的装置を空の 45 ガロンの金属ドラム缶に設置した。

メイプルリッジ地域に住んでいた知人、ハリー Newfeldt はデイビッドを訪ねて、装置で遊んだ。

「あなたは、何かをつかんだ」と、Newfeldt は言った。

一方、変な事件は、ハーメルで起こり始めた。

突然小さい緑の葉は床の上の小さな書類の山の上に、

またはノラのベッドで、または他の予想外の場所に現れる、

これらの葉の最も不可解な性質は、一見永続的な鮮度であった。

同じ袋の普通の葉が茶色になる間、これらは緑の色とテクスチャーをいつまでも保っていた。

Hamels が「天使からの」植物と信じた葉は

最初、ノラに気づかれた

ある日彼女がデイビッドが造った自家製の室内便器に腰かけて手を伸ばして、彼女の髪に手を通したときノラは以外にも、彼女の髪のカールの間に葉の飾りをつけたと感じた。

「これは不可能だ」と、彼女が鏡をのぞいて、思った。

彼女は、終日、家にいた！

各々の葉は、突起が 12 点 — 両側にそれぞれ 6 点 — 持っていた。
ノラは、これらは将来使用されると信じていた。

彼女は、デイビッドが異なる惑星に着陸するかもしれない船を製造することをしっかりと確信していた。

彼女はデイビッドがその冒険について話したその時から、その現実を疑わなかった。
彼女は夫をよく知っていて、体から出て宇宙船にいった話を創作しないことを知っていた。
春夏秋冬と、葉は現れた。

冬の 1 日、電気は停電した、そして、ノラは彼女の手編みの毛布の下で震えた。

葉は、毛布の中に現れた。

ほかの時は、デイビッドは彼女の服の上で、テーブルで、彼女のお茶に、そして、花壇でその葉に気がついた。

2 人は、ノラが屋外にいなかったことを知っていた。

メイプルリッジの家に新しい緑の葉は不思議にも 12 回も現れた。

これらが現れるたびに、ノラは慰められた。

彼らはノラに、孤独な闘いではないという励ましを与えた。

目に見えない存在は、彼らと共にあった。

73

かつて、ノラが靴を履く前の 1 足に緑の葉が現れた。

その瞬間に、ノラは彼女が結局古い家に住むことを彼女に知らせるテレパシー画像を受けた。

これは、彼女にこれからやって来ることへの準備をするのを助けた。

神秘的な訪問客

ある日、デイビッドが初期の実験的な装置に取り組む間、彼はドアのノックを聞いた。

彼とノラは、家で一人だった。

ノラは、窓の隣の寝椅子で動かずにいた。

彼がドアを開けた、そして、太陽が彼の目に輝いて、彼はそこに立つ 3 人の人々の顔をすぐにはわからなかった。

目が光のまぶしさに慣れて、むこうをちらっと見ると、彼らのダークグリーン車が車道に駐車されているのが見えた。

彼は青い数字が書かれた、赤いナンバープレートに気がついた。

翼のあるフードの装飾以外に、車については他に何も、その後も彼の心に入って込めなかった。

2人の男と1人の女性は、ドアに立っていた。

彼らは、普通の衣服を着ており、最初彼らが On と A とアルカンだとわからなかった。

だが、彼らはデイビッドにテレパシーで「ノラと話しに来た」、と話した。

彼は、彼らが誰だったか理解し始めた。

彼は茫然自失で、彼らを家に入れ、ノラが単独で床に伏していた部屋に導いた。

彼らはデイビッドに振り向いて、彼らが誰だか、彼の推測を確認させた。

彼は、彼らと口をききたかった；

彼には、まだ尋ねたい、無数の疑問があった。

しかし、彼の熱意は、無言の拒絶に会った。

メンタルコミュニケーションは、鮮明で強いものであった；

彼らは、デイビッドの介入なしにノラと口をききたかった。

彼はくじかれ、拒絶された。そして、ノラのベッドの側に引かれた椅子に座った、彼らの背中を見た。

彼らは、彼女の手を握るために、ノラと十分に親しい状態で座っていた。

デイビッドは、彼らがコーヒーの彼の申し込みに「はい」と言ったが、彼らが部屋を出ることを望むことがわかっていた。彼が参加することを望まないという彼らの内部のメッセージを受けて、こらえかねてデイビッドも、コーヒーを飲むキッチンテーブルに、腰かけた、またはまる3時間台所のまわりをゆっくり歩いた。

彼は、リビングルームの会話の低い声を聞くことができた

デイビッドは、彼らのことばの多くは理解することができなかったが彼らの低い声を聞こうと努力した、

とても奇跡的なことに、彼はノラがどもりもなく普通に話すのを聞いた。

彼女は前は決して普通に話してない。

彼がそれほど冷遇されず、完全に会話から締め出されないなら、

デイビッドは、それらの時間の間に障害がある妻がとてもはっきりとたやすく話すのを聞いて喜んで、叫んだろう。

75

台所から聞き取れた会話の断片から、彼がわかった全ては、彼らがノラの以前の人生について話し彼女の健康に関して、アドバイスを与えていることであった

彼らが話した事件のうちの1つは、彼女が5才のとき、ノラがした経験であった。

訪問客は、彼女が足を突き出して座っていたところを通った大きなトラックが転がって、車輪で押しつぶされるところだったことからノラの足を彼らがまもったと言った。

緑の葉が贈り物であると彼女に話した;、彼女の健康を手伝うために、まったく彼女の気前のよい性格にもかかわらず、彼女は彼らに全てを言えない。

彼らも、緑の葉が贈り物であると彼女に話した

彼の傷いた感情を通してさえ、ノラが普通に話している奇跡にデイビッドは喜んだ

全ての隣人は、その午後仕事中心だったので入って、彼女の話を書く他の誰も、いなかったはとても不運だった

訪問客は、話し終わって、ノラとデイビッドに、さよならを言って急に家を出た。

デイビッドは立ち上がったが、すぐに彼らの後を追わなかった。

彼が追いかけることに決めたときは、追いつくにはもう遅かった。

車は、私道から車道に、運転していた。

彼は、車に駆け寄った。

彼が舗装道路を両方の方向で下まで遠くまで見渡すことができたけれども、驚いたことに、車は見えなかった。

リビングルームに戻ると彼が訪問客にだして彼らがカップから飲んでいたコーヒーカップはまだいっぱいだった

ノラは3時間の間通常に話す彼女の能力を与えられたが、同じくらい急速に、失った。

デイビッドは、訪問客が他に何を話したか、ノラに尋ねた

彼女は普段のためらうような声で、彼らが地球上の人々が利己的方法で惑星の資源を使用することについて話した、そして、人間はそのことに注意しなければならないと彼に話した。

3人はまた、彼らが地球で過ごす時間は彼らの惑星では失われる、彼らはその時間を回復することができないと言った。したがって、それは、彼らにとって非常に大切である。

さらに、彼らがノラに話したことは、彼らが船でテレパシーでデイビッドに伝えたもの一致していた。

近い将来災難に直面することが、ありうる。

多くの人々はその時にむけて準備ができていない、そして、それらの人々は準備していた、ノラのような個人とデイビッドの強さに目を向ける。

その後、デイビッドとノラは、両方ともアルカン、A と On が目に見えないように彼らとともに家にいるのだという強い感覚があった。

デイビッドはそれらの 3 人の人々への敬意を感じた、そして後で、彼は神として彼らについて言った。

一方、ノラとデイビッドが見えない実体を容認することは、緊張した彼らの友人キャロルには手に負えなくなっていた。そして、キャロルはしばしばハーメル邸に泊まった。

ある日の夕方デイビッドは宇宙船とその変わったテクノロジーの神秘について頭を悩まして一人で台所に座っていた

警告なしで、冷蔵庫ドアは開いた、そして、ピーナッツバターの入ったジャーは外に浮いて出てきた。

それがテーブルに着地する前に空中に浮かんだので、デイビッドは目と顎を丸く見開いたままジャーをじっと見つめた。

ふたは開いた、そして、ピーナッツバターはゆっくり消えた。

"Tabarnac," he swore.

「Tabarnac」と、彼は悪態をついた。

「これは、一体全体全て何か？」

デイビッドは Kladen からの友人がメッセージを出していることを直観的に知っていたので、考えが流れるのにまかせた。

「えー。南京豆か。

南京豆には、堅い殻がある。

そして、南京豆には 2 つの内部という二元性 がある。」

それはまるで彼が初めてメッセージを得たのではないように思われた。

デイビッドとノラはピーナッツバターを食べず、客のために瓶を買っておいたのだが、いずれにしるデイビッドはその瓶を冷蔵庫に入れておいた。

不思議なことにジャーは繰り返し空になった。

メッセージは、何だったのか？

瓶。

容器。

南京豆の殻。

殻について考えると、答えに近づいているのを感じた。

「私は、船のエンジンを殻に入れると考えればいいのか？

エネルギーを発生させるシステムを何らかの殻に入れるということか？」

その後ピーナッツバターのトリックが止まったので、これはメッセージにちがいがなかった。

それから、もう一つの奇怪な出来事が起こった。

冷蔵庫の卵ケースはそれ自身で開くにちがいがなかった。そして、卵を部屋に浮かせた。

空中に浮かんだ後、それはカートンに戻った。

彼は、2つの物体の飛行が彼に重要な何かを伝えていることを知っていた。

答えがくるまで、彼はブレーストーミングをする。

「殻。

何か他にないか？

卵を料理するとき、卵黄は真ん中にある。

それにどういう意味があるんだ！

さてそれは、白くなるまで、茹でることができるが、あるときまでは卵黄は依然として液体のままである。

それは、宇宙船とどう関係しなければならないのか？、「多分、秘密はとても薄い殻と関係があるんだろう。

ほかに理由はないのか

殻を壊さない限り、卵を激しく振動しても、卵黄は壊れない。」

ついに、彼が Kladen からの彼の友人が再び彼に伝えようとしたことを学んだという歓喜の感覚が、来た。

シェルと卵の白身の間で壊れない皮膜！

それは、卵の内部を保護している。

船はある種の保護膜がなければならぬ—それは磁場なのか？

おそらく、宇宙船には何か卵の卵黄のようなものがある。

デイビッドの宇宙船の推進力の理解は、シェル状に囲まれた磁場の一連の反発に基づくと思っている。

これはエネルギーの増強させる、そして、それが特定の入り口に到着するとき、それは絶えずそれ自体を補充する。

(エネルギー差の) 高いポテンシャルは、船の内部と外部の間につくられる。

それは、人類が開発した他のどの電力源とも異なる種類のエネルギーであった

彼のインスピレーションについてノラに話したとき、たとえそれが働く方法をまだ理解していなかったとしても、どのように働く宇宙船を完成するかほんの少し洞察しただけであっても、彼女は熱意を共有した。

次の日になるとより多くの洞察が、えられた。

しかし、最初、キャロルの我慢の限界となる事件が、起きた。

それはキャロル、ノラとデイビッドの全員が家にいた日に起きた。そして、各々自分の懸念から精神的に隠そうとしていた。

ノラはソファの上でいた、そして、キャロルはまた、リビングルームのベッドルームに向けておいてある椅子に、座っていた。

デイビッドは彼の目の中にある、ベッドルームで動く何かに注目した、そして、彼は捕えよ

うとした。

キャロルは注意し、指をさした。

空のベッドで、ベッドカバーは上へ上がっていた。

おおわれて見えないが、人体のような形が、カバーの下にあって、カバーはそれをくるんでいた！

少しして、それは消えた、そして、ベッド・カバーはベッドの上に落ちついた。

キャロルは驚きで息が止まった。

彼女の顔は真白になって、それから、怒って真っ赤になった。

「もういいわ！

空飛ぶ円盤とこれだもん」、彼女は文句をいった。

「私は、この幽霊屋敷を出る！」と、彼女は帰らなかった、しかし、デイビッドはこの几帳面な若い女性が去っていくのをただ悲しんで見ているだけではなかった。

He found other help for Nora, and they had no further ghostly incidents of the mischievous type.

彼は他のノラの救済策を見つけた、そして、彼らは更に災いとなるような気味悪い事件はおこさなかった。

次の仰天する出来事は、デイビッドへの重大なコミュニケーションのようだった。

陽がさんさんと降り注ぐ 1 日のノラは新しい家政婦とベッドルームにいた、そして、彼にビジョンが見えたとき、その光景の中で本当に生きているようなとても変な感覚でデイビッドはリビングルームの中央に立っていた。

それでも、彼はそれがピーナッツバター・ジャー、卵のような物理的現実ではないことをすぐに理解した。

それは、ベッドカバーの中での動きのようなポルターガイストのようなものではない。

そして、非物質的なビジョンが現れたとき、幽体離脱していたわけではなく彼自身の身体的な体の中に意識は確かに残っていた。

それでも、彼はこのビジョンにいくぶん混乱した。

彼は、長さ 3 フィートの巨大なミツバチが、カーペットより上でうろうろしているのを見た。

彼は、急速に振動している翼の動作を見ることができた。

その鼻（ほぼ 30 インチの長さのチューブのような長い管）を、直径およそ 1 フィートあった花へ深く進入させて、甘露を吸っていた。

ミツバチの鼻は、各々の長さおよそ 9 インチの 3 つの部分が動いていた。3 つの部分が別々に回転する動きは、連続的に花のおしべに鼻を侵入させ蜜を引き出した。

同時に、デイビッドはミツバチの足の運動を見ることができた、そして、彼はこのビジョン

のあらゆる面が彼に何かを伝えているのを感じた。

ミツバチの背中に、集められた異なる毛の色は、確かな模様をつくっていた。

ミツバチがその体を移動させるので、これらの線は絶えず動いた、そして、彼らの動きはミツバチの鼻の3つの部分のラインの動きと同じだった。

それから、場面はわずかに変わった。

ミツバチの体の回りを、ヘビがとぐろを巻いていた。

その背中には、黒い横線の模様があった。

ヘビは、ミツバチのまわりにとぐろをまいて、その口の近くに尾があるようになって、ほとんど三角形の形になった。

そして驚くべき光景となり、小さいブタはヘビの頭にある口の中で動けなくなり、そして、この子豚はのみこまれていった。

へびがブタをのみこむと、このへびのリングは濃い色彩になり、このへびの波打つ運動はミツバチの鼻の3部分の動きに似た独特な運動をした。

ヘビの最上部の胴体の3本の線は閉まったり、開いたりする、そして、その3つのリングの線は同じ動き方をした。

ヘビに沿ってある、全てのリングはそのへびの口と関連して働いた。そして、吸入した。

ねじれ運動はリズムカルだった—1、2、3、123。

デイビッドはミツバチの足の運動もリズムを送って、その体の膨張と収縮の対立する運動とともに動いているのに、気がついた。

1本の脚は進むと他の脚は後ずさる。そして、両方とも振動している。

脚が逆に動いたので、翼も同時に、わずかにねじれて動いた。

デイビッドは、ビジョンを歩き回ってそれを違う角度で見た。

「私は夢見ているのか？」

いいや、それはここにある、これは本当である、

彼は、彼自身にささやいた。

彼には、場面への恐れはなかった、

何かを学ぶことができることだけ、彼はしっていた

ビジョンは、低い声で何度も繰り返される) **Kryptonique** という言葉のように聞こえる音をたてていた。

Kryptonique。」

デイビッドはスーパーマンがクリプトンと同じ言葉の音を聞いた経験について読んだのを憶えていて、それが奇妙だと考えた

デイビッドは地下トンネルで働いている、人々が彼らの中で話しているのを聞いた。

その時、まるで彼が非常に濡れた、湿った洞穴にいるように、この音を経験した。

彼は、口に出して音を模倣した。

「Kryptonique。」

新しい家政婦は、デイビッドが何かことばを言っているのを聞いた、
しかし、彼女は部屋に入って、彼を見たとき

何も無いところで妙な旋回をしていた

彼女は、確かに、デイビッドがとても独特な方法で動いていると思った。

おそらく、家政婦が長さ 3 インチ以上の針をもつミツバチを見たならば、もっと彼女は動揺しただろう！

これを見た時、デイビッドは単純さと同時に重要なものを感じさせた、

フォースフィールドになぞらえて、このビジョンをつくったのか。

最初、彼はどう考えるべきか、わからなかった。

彼は、幻影に隠されている可能な全ての意味を考えた。

ミツバチの管の 3 部分の運動は、最も明確なレッスンだった、。

しかし、その羽根の羽ばたきと体重を 1 度は前足の上に、次に、反対に、後ろの足に置く方法は重要だった。そして、それは鼻の運動と一致していた。

『ヘビ』はデイビッドが教えられたことを補強しているようだった。そして、宇宙船が動く方法についての彼の疑問に対する答えを提供した。

後で、彼はそれを解説しようとしてみた。

「食事をのみこむ時、ヘビの意識の全焦点は、嚥下プロセスにある。

食事がのみこまれたあとのみ、音を立てることができた。」、「ミツバチは、ヘビの反対側にいる。それは花から蜜を捕らえる間、それは振動の雑音をつくった。

その後は、雑音はない。

その時 2 つとも生きて、次の食事を待つ。

我々も、同じである。

我々が次の食事を待つ間、我々は息をしている。

我々は、毎秒、毎分、呼吸しなければならない...

彼は実験した後でわかったように、

突進する、空気は飛行する船の推進力とエネルギー発生システムに不可欠であることを示された。

彼は、ミツバチの鼻の 3 つの部分の断続線と、ヘビの線は、考えたこと以上に重要なものとして理解した。

デイビッドは、その時、彼が船の推進力システムの機能方法の基本的原則を理解したのを感じた。

彼が「同位元素線」と言っている直線の3つの部分の変化に言及する、しかし、の彼の「同位元素」の意味は物理学の言葉の認められた意味とはまったく異なる。

デイビッドにとって、彼のフレーズ「力の同位元素線」の意味は、垂直のクランク軸としての、3本の直線を言っている。

上から装置を押している重さは

線が互いから絶えず倒れ逃げようとする原因となる

1つが倒れると、

第2のものも倒れる、

そして順番に第3のものを動かす。

基本となる3本の線が常に回転しながら離れて、中心に戻ってくるなら、

トップの線が再び倒れ去るのを開始すると、まったく同じように、運動は無期限にフィードバックループで進行し続ける。

デイビッドは彼の実験的なモデルを造る間、心の中でこの複数の「i-line」運動の部分を考えていた

それは、連続運動の鍵であるようだった。

ミツバチと、ヘビと子豚の幻影は、彼がビジョンを与えられた最後であった。

その時、彼の心に動いている宇宙船のこの絶えずアンバランスで中心に戻ろうとしている、巨大な円錐形のものはっきりしたイメージを得た。

円錐は、巨大なパワーを確立した。

3人の宇宙人は地球から数千人を運ぶための船を建造するという仕事を達成するために、それをどうにか再現しなければならないという使命を彼の肩の上に置いた：

船は、20世紀の地球の先端技術とかなり異なる方法で、とても単純な方法で動く、

それは、デイビッドにそれを造る方法を教える誰もいなかった。

実際、彼は円錐形の連続的なぐらつき運動の再現に挑んだが何十年もの彼の努力への冷笑を人々に引き起こした。

彼は、試行錯誤のプロセスによって学んだ、

そして、彼が学んだことをよく見ると

彼が小さなモデルを造るための青写真を書くことから行っていった。

これらは、彼が「同位元素線」がどのように動くかについて調べるのを助けた。

1つの試作品では、彼はディスクのまわりにスケートボードの車輪を使った。

中央の軸は、ディスクを回転させた。



写真 p 84

蝶の上で転げるボウリング・ボールと蝶をみせている法律家のデイビッドの兄弟。

彼は、この機械は、水平に調節されるとき、

上に、再設定することも必要なしに連続的に前進し落ちているボウリング・ボールを持つと言う。

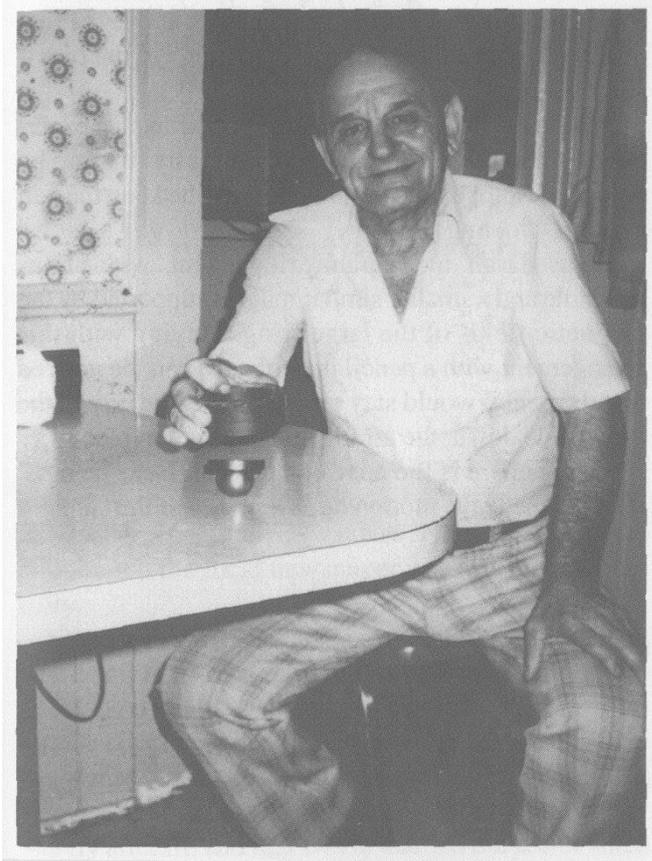


写真 p 85

デイビッドは彼のメイプルリッジの家に座って

彼の手の大きい磁石によってテーブルの上でゴロゴロ音を立てて動くボールの回転運動をさせる実証を見せている。

彼の手にもった大きなドーナツ磁石を使って、それをよろめかせた

小さな金属のボールの上におかれた磁石が大きいドーナツ磁石の磁場にとどまったことを確認する。

これは、彼が宇宙船で見たバタフライ効果と彼が彼の機械のプロトタイプで使った原則を示す

彼は最初のものの上にもう一つの装置を置く方法を学んだ、そのため、それは反対方向に連続的に「倒れた」。

リングの中のボウリング・ボールは、連続的にボールを「同位元素線のみで回転し続ける別

の実験方法の一部であった。」

そして、どのように、彼はボールを「浮かせ」て回転させ続けることができたか？

彼は、4インチの穴をもつ6インチのセラミックのリング磁石と似たような小さな磁石を使って、より大きなリングの磁場が小さい磁石を支えさせた。

タバコ缶の中の鉛筆とこの装置で遊ぶことができる、彼は鉛筆がまっすぐなままでいることに気がついた。

缶をさかさまに回しても、装置は、その場所にとどまった。

「磁気が、答えである」と、彼が言った。

次に、船に乗って見た波動を彼は再現しなければならない。

第 7 章

突発的な飛行

デイビッドはその時—新聞記者にインタビューされ、好きにはなれない新しい経験をした。coffeeshop のウェイトレスは、地方紙に電話をかけて、デイビッドの物語を伝えた。

1976 年 3 月 31 日の Gazette の地方版の記事は、「— Flying Saucers に乗ったデイビッド・ハーメルを紹介する」という見出しだった。

これは、彼をいくぶん不快にした。

リポーターのグレン Kask は、デイビッドが人々の家を暖め、工業の原動力と、航空機を飛ばす永久運動の秘密を知り、その装置を造ったが、彼は地球から 30 億マイル以上離れたところから来た宇宙船に乗り、必要なテクノロジーを見せられ、秘密を学んだと書くことから始めた。

「ハーメルは現実に経験している、そして、地方精神保健衛生局は彼の理性に疑いを投げかける記録をとらない。」



1975 年—1980 年の期間にさまざまな新聞がデイビッドの写真に掲載した記事を書いた。

これらの記事は彼の異常な体験とこの出会いでもらった情報を元にしてそのあとプロットタイプを作ったことを報じた。

記事は、宇宙船の推進力システムにとって水が重要な要素であると誤って書いた。

さらに航空機は蒸気で推進したと言って、間違いを、増大させた。

だが報道の多くは、正確だった。

デイビッドが名門機関と学者からの書簡の印象的なコレクションをしている点に注目させた。

「大部分の当局はハーメルの提案にすこし懐疑的だが、彼の実験を思いとどまらせはしない。彼が実用模型を持つときは、連絡するよう頼む。」、デイビッド・ハーメルは、政府補助金のためにボブ Wenman 下院議員と接触した。

彼はこれを完成したが、「これまで、連邦政府はプロジェクトへの参加を断っている。」と、グレン Kask は物語を楽しく続けた：

「ハーメルが必要な磁石をえることができるならば、Maple リッジの上に見られる次の未確認飛行物体は Whonnock のデイビッド・ハーメルのものかもしれず、あるいは、テレビ番組 Waltons に周波数を合わせて捜す Kladen の 7000 億人の住民の 1 人かもしれない。」



居住している大衆のなかで、デイビッドについて新聞で読んだ、レナードという名の男性がいた。

ある日彼は、彼自身を元聖職者として自己紹介し、彼が会社をつくって、株を売ることによってデイビッドの研究のためのお金を集めることができると言った。

デイビッドは計画に同意した、そして、彼とレナードは— Kryptonique — の名前の会社をつくることに同意した。

デイビッドは彼に彼が宇宙船に乗って理解し得たことのマイクロフィルムを見せた。

711

レナードは、マイクロフィルムを熟練した専門家に大きくさせると申し出た。

レナードはマイクロフィルムを拡大すると言って写真のネガとともに帰ったが、その後、マイクロフィルムを決して返さなかった。

同僚に委ねることによってマイクロフィルムを失うことは、デイビッドを非常にいらいらさせた。

しかし、人を疑わない彼の性格で失敗したのは、これだけではなかった。

しかし、その時、デイビッドはレナードとの協力関係のことで『悪いことを予期するにはあまりに興奮していた。

ネガを引き伸ばして出来た写真は、彼が旅行した宇宙船を表しているように見えたので、デ

デイビッドは歓喜した。

それはほぼ 45 度の角度で暗い背景の中を飛んでいた、そして、外側のまわりの小さな稲妻の線はそれに差し込んでいるように見えた。

宇宙船の写真が補強されたのを見て、デイビッドは、彼の経験が体外遊離に起きたけれども、それは夢でなかったという信念をもった。

とにかく、写真なしでも、彼はそのような真実の経験を夢で見ることができないことを知っていた。

さらにまた、義務を果たすことを強要されたという感覚は、彼の内側で強くなり続けた。

彼は、強力な責任を感じた。

地球外の訪問客はもどってはこなかったが、思い出させ続けるために彼の心を刺激して、教えるようだった。

「それに磁石をつけなさい。

転げ回る運動が正しいことを確認しなさい。

それから、ボールを一番上に置きなさい...

91

最初の実験の狙いは、結局のところ、磁力を釣り合わせることを学ぶことだった。

「均衡を保ちなさい。それは、バランスが全てである」と、その声が彼の頭で言うのを聞いた。

確かに、彼にそのことを言う身体的な者は、まわりに誰もいなかった。

バンに住んでいた「元聖職者」レナードは「Kryptonique」会社の株を売っていたが、非倫理的商習慣で協力を崩壊させた。

デイビッドは、したがって、その協会を終えた。

レナードはデイビッドの人生から姿を消し、ビジネスの代わりに混乱を残した。

デイビッドは、会社をつくるどんな試みも失敗した。

ついに彼が見た **cone-above-cone-above-cone** 傘を重ね上げた電力発生器に似た小さなモデルを造る準備ができたと感じた。

彼が使った材料の多くは、ジャンク・ヤードからもって来た。

自転車のタイヤのリムは手製のアルミニウム円錐の底辺として用いられ、電気テープで磁石をはりつけた。

正確に間隔をあけてはり付けた磁石は、反発力を生み出した。

家のガレージで、内側を磁石でまるく取り囲んだ黒い鋼の 45 ガロンの樽に装置を入れた。樽は、シェルのように覆う装置である。

すべてを整列させた。

それから、彼はカバーをネジ止めした。

この圧縮装置は同位元素線に 3 つの部分に分かれるよう強いた、そして、一方から他方へと転げる運動をさせて通り過ぎた。

互いをはね返す磁石のリングは、円錐が他のもう 1 つの円錐の上に浮かせる原因になった。これらは次第にどんどん速度をましてゆき、恒常的にぐらつき旋回する運動でスイングした。

これらが特定の速度に達したあとは、振動はいくぶん安定した。

92

デイビッドは、彼のモデルが動くことを喜んだ。

彼は成功を確認して、ノラの依頼に対応するために家に入った。そして、実験装置を動かしたままにしておいた。

彼はガレージとリビングルームの間のフレンチドアを閉めた、彼は無関心だったが、その蓋をされた樽の中で装置はぐらついていた。

彼は比較的小さな装置はエネルギー効果を発生しないと確信していた、そして、彼はぐらつき運動はすぐに止まると予想していた。

彼は、それがどれくらいを動き続けるか見たかった。

運動が朝まで続くならば、非常に驚きだと、彼は思った。

「それは、決して飛びはしないが、多分、それから学ぶことができる」と、彼はノラに話した。

そしてとても大きな爆発音によって起こされるまで、ふたりは、眠ってしまった。

「火事だ！」と、ノラが言った。

デイビッドはベッドから飛び起きて、装置が取付けられたガレージの方を見た。

その方向から赤い輝きはフレンチドアを通して、リビングルームを照らした。

ベッドルームからみると、ガレージが燃えている様子だった！

ガレージ内の風景に遭遇し、彼はうろたえた。

彼の慎重に造られた装置はドラムから爆発し、部屋中にバラバラに散らばっていた。

明らかに、装置が動いて、ある種のエネルギーの増強によって赤い輝きが発生した。

幸いにも、火がなかった、しかし、彼の数千ドルもの磁石への投資は破壊した。

デイビッドにとって、金属の崩壊と建物の最上部の壊れた屋根のぐらつきは、全てのセラミック磁石の損失ほどには、こたえなかった。

93

しかし、彼には磁気反発の力を「線をこわす"break-ing lines」の配置に関係するものを作ることができたのを見た満足感があつた

「これが働くので、私は別のものを構築しなければならない」と、彼がノラに話した。

デイビッドは 1977 年夏に、次の 2 番目のモデルの実験にはいった。

今度は、2 輪トレーラーの上にそれを築き上げた。

これは、円錐を釣り合わせるための研究であって、これらの円錐が振動しているとき触れるかどうかを見ることが目的であった。

p 93

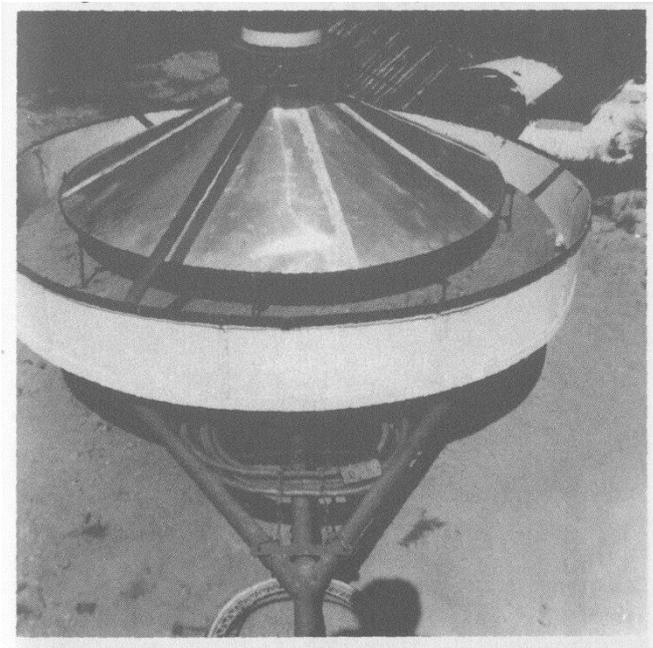
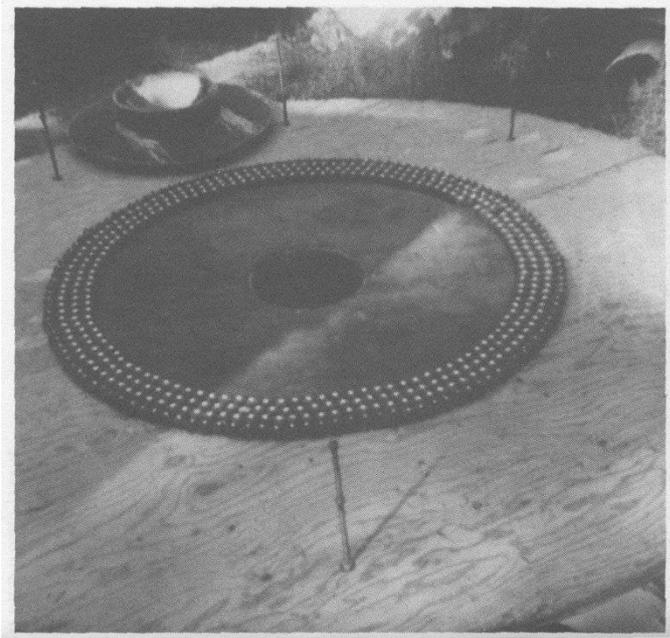


写真 p 9 3

カバーの階層がない以外は同じ装置である：

「デイビッドが「蝶」と呼んでいる回転しころがる効果、またはぐらつきの原則の一部をす
で見ることができる。

簡単に運んでデイビッドは、トレーラー・フレームの上にそれを築き上げた。



p 94 写真

Now the lower plywood disk is removed from the machine.

現在、この下部の合板のディスクは、機械から取り外されている。

上に、中央のカップがセンターからずさされているのがみえる

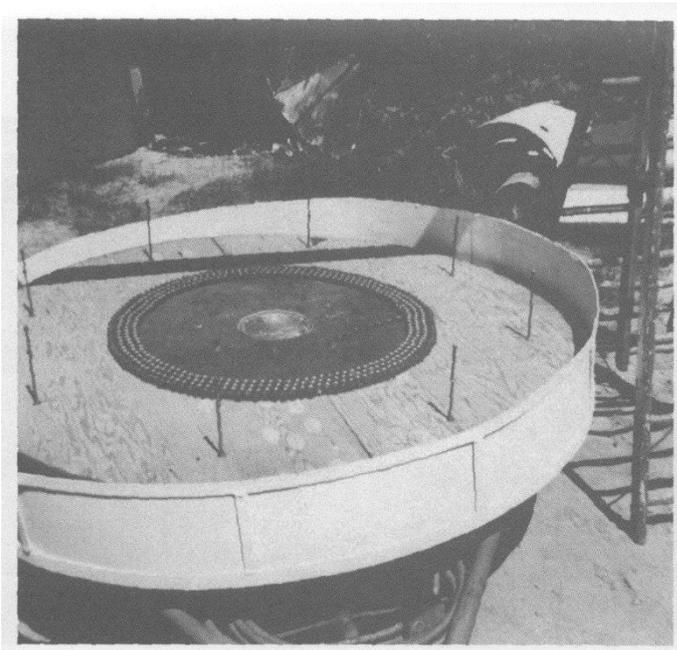
このカップは、装置の層の間の運動を許すボウリング・ホールに入る。

同じカップの下に、逆にされたカップがあり、それはボールの上に置かれ

機械の上層の全ての変化に独立して動く

このカップは、装置の各層の間での運動を動かすのを許す

この装置の各々の層の上と下インストールされた磁気リングで、水平な状態に適切に保たれボウリング・ホールに入る。



p 95 写真

今は、カバーと上の円錐は、取り除かれている。

明らかに、中央に釘づけにされた磁石の小さなドーナツ型のリングが見える。

光る表面に釘は、みられ

3つの別個の細いリングが作られ。

それは、上に見られる取り除かれた円錐の上につけられている。

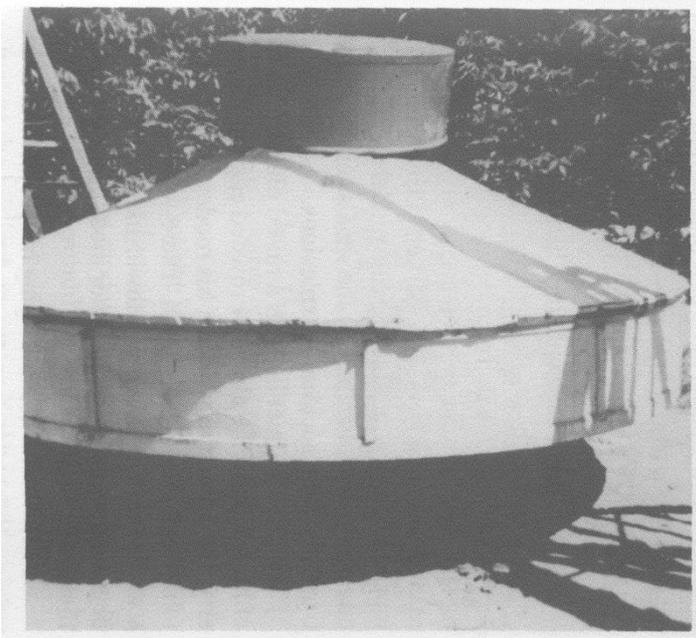
これらの磁石は、似た極性のリングをはね返す



p 96 写真

この装置は Maple リッジの

デイビッドの家の前の、
離陸した4足のプロトタイプの時
造られた、
そして、彼がオンタリオに立つ前に、造られた最後の完成した・プロトタイプである
この機械は、大きな ptywood ディスクを磁石と釣り合わせる方法を学ぶために、非常に役
に立った。
この装置は、また、異常な効果を示した。
たとえば、それはカメラ、フィルムの二重露出と、テレビへの干渉と、はっきりした理由も
なく車がデイビッドの家の前で通りで止まる原因になった。



p 97 写真

This picture was taken at a later stage.

この写真は、最後の段階でとられた。

彼は、そのまわりに磁石のリングを置いた。
それを動かすとき、この実験は変わったエネルギー効果をつくった。
写真フィルムは、特に影響を受けた。
彼が写真を撮ろうとすると、二重露出になる、あるいは、写真はまったくうつらない。
テレビは、装置が運転中かどうかのもう一つの指標であった。
「ねえ、あなたテレビ受信が妨害されている」と、彼の実験を見て、ノラのヘルパーは外の

デイビッドに叫ぶ。

ほかの時は、近所の全ての電気が、消える。

彼がトレーラーの上にモデルを作りあげている間、彼はまた、もう一つのモデル（金属のドラム缶に詰め込まれたものより非常に大きな作動する機械）に取り組んでいた。

最初に、彼はかなりの量の 1 インチ磁石を買わなければならない。

彼は、およそ 1 年間一生懸命にこの機械に取り組んだ。

どんな偶然の爆発からでも小屋の天井と屋根を守るために、新型は外でテストされた。

次の夏、彼は混雑した彼の家の端に、高いプラットフォームを建設した。

彼は、地面のずっと上に彼の宇宙船のモデルに公明正大に取り組みたかった。

その一番上のプラットフォームでもう一つのモデルを造り始める前に 4 脚のタワーのような構築物を建設するにはいろいろな理由が、あった。

プロジェクトをカモフラージュする 1 つの理由は、これを必ずしも快くは思っていない隣人から隠すことであった。

デイビッドは、この男が「のぞき回る」と考えた；

そのときの彼は、デイビッドを困らせるエレクトロニクス・エンジニアであった。



p 99

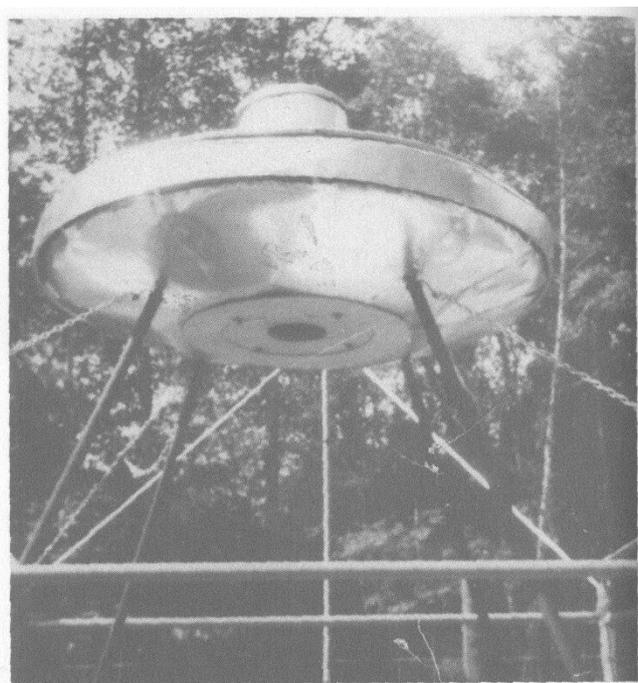
この写真は、デイビッドの造った 2 番目の動くプロトタイプを支持する 4 つの足を示す、このプロトタイプは、運動を進行中にするために、落ちているボールの代わりに磁気原則を使った。

「あー！

いつかあなたは、それを信じるようになる」と、デイビッドは思った。

ハンメルがそれを動かしても感電死しないように、モデルを簡単に見えないように隠し、孤立させるために 10 フィートの合板プラットフォームを塔に建設した。

箱舟を建造しているとき聖書の登場人物ノアは嘲笑に耐えたと言われているが、ちょうどその時、デイビッドの隣人も彼を嘲笑した。



p 100 写真

これは、デイビッドによって撮られた珍しいクローズアップの写真である。

他のプロトタイプと比較して、これはその建設終了後だけ、覆いを取り外して写真が撮られた

これは、デイビッドが、その時、彼が申し込もうとしていた特許を保護するため内部を見せたくなかったからであった。

この装置は直径 8 フィート、800 ポンドであった。

彼らは、ハーメルのマわりの多くでは、建材が存在しているのに憤った

がらくたは、自分達の資産の価値を損なうと、彼らは感じた。

義理の父さえ、笑った。

「水槽を造っているようだ。

水を出すために下に蛇口をつけなければならない。」、デイビッドは一緒に笑った。

彼の塔と新工夫の冗談を言った隣人は、彼をフランス人であると言った

とき、彼は単に無視するだけだった。

彼は見せられたテクノロジーがエネルギー戦争をなくし、人々が調和して生きることが許されることを確信していた。

この筆舌につくしがたい可能性に比較すると前庭の散乱に、どんな重要性があるか？

彼は、1977年夏から、次の夏の終わりまで、屋外のプラットホームを使った。

しかし、彼はガレージで大部分の機械自体の研究を完了した。

彼は毎晩それに取り組んで、機械の一部をガレージから 16 フィートの木のはしごの上の、プラットホームに 4 つ分かれた部分部分を上げていった、そして、彼が 2 番目の円錐を中に置いたとき、装置の写真を撮った。

彼が実際にエネルギーを発生させる装置の実験を始めたとき、デイビッドが立つプラットホームを広く合板で囲んだので、隣人は彼が装置に取り組むときも何が塔の最上部にあるのか、明確には見ることはできなかった。

このモデルの直径は底の 7 フィート 6 インチで、その高さは 3 から 4 フィートの間であった。

外の枠組みとその下のプラットホームは、表面からは隠れていた。

彼のローテクの cone-above-a-cone デバイスの一番上はごみ入れのふたで、磁石がパイプを下に押しつけるようにするため、その内側をネジでとめた磁石で覆った。

これは、構成部品を押し揺らしぐらつかせる運動をおこさせた。

このプロトタイプは、彼が飛行の間、見た原理に近づいた。

彼の装置のトップと底が動くようになっていることを確かめられたなら、

トップで若干の圧力を加えたとき、円錐は、磁石の反発面に対する反応で動き始める。

彼は、揺れている円錐の、運動をそのまま続けさせるために、ごみ入れのふたの中に磁石を使った。

それを止めるために、彼は一番上の磁石を垂直線から離して動かして、3 つの部分への圧力を放出させる。

それが動くとき、空気は彼の装置のまわりに意故に残した穴に流れこんだ、そして、円錐の中央にも、同様に空気が流れる穴があった。

地方紙 (The Express,) のリポーター・ロン・ソディはデイビッドの空飛ぶ円盤の飛行から 2 年たった 1977 年 10 月に書いた「彼は笑われた。そして宇宙人によって彼に与えられたプロジェクトに関して彼自身のお金 3,000 ドル以上に費やし、あざ笑われた。」と、。

ソディはハーメルの家の外直径およそ 7 フィートの船を解説し、作業場の中で、デイビッドが直径より大きなもう一つの「車輪」を造っていると云った。

「彼のプロジェクトは有刺鉄線とそれに付けられた大きな、『危険』という表示で囲まれている。

彼のプロジェクトの多くの図面は、家を散らかしている...

ソディはインタビューのためにハンメル居心地のよいリビングルームに座って、デイビッドが彼自身を彼が宇宙船に乗って移動する前は構造の図面も物理学も何も知らなかった単純な男だと言うのを聞いたと言っている。。

デイビッドは誰にでも船の推進力の秘密が理解でき、機械を造ることができ、彼自身のエネルギーができるとリポーターに話した - 「石油カルテルと多国籍企業は必ずしも評価しな

いだろう」「B.C Hydro 水力発電機構もそうだろう。と、ソディは付け加えた。彼は航空機の試作モデルを造ろうとしていたので、リポーターと座ることは、デイビッドがしていた恒常的な仕事の邪魔であった。彼がはしごの上に彼の機械の部分を引っ張り上げたあと、数え切れないほどの夜働きつづけた。ある晩 11 時に、ノラは家にいた、そして、デイビッドは再び、彼の約 8 フィートの機械に外で取り組んでいた。ゴミのふたのキャップをかぶせた時だった。彼がトップのネジ止めを終える頃には、輝きが金属から来ているのを感じた。

彼の腹部が触れたところの下の機械の色は正に変化していた！デイビッドは速く、地面へとび戻って、誰も踏台をすべり落ちて負傷しないように、それを登らないよう、はしごを取りはずした。彼は、プラットホームまたは機械のまわりで風の大きなラッシング音を聞いた。デイビッドは後ずさりして、それから、家に向けもどった。「テレビ放送が消えた！」と、ノラがベッドルームから叫んだ。「テレビなんかどうでもいい；カメラは、どこにある？」と、デイビッドが鋭く言った。停電は、近所を暗闇に突っ込んだ。彼はテレビの近くにカメラを置いていたので、彼は暗がりですぐ手探りで捜した。彼はカメラを拾った、そして、彼がドアを急いで出ると、その時飛び上がって西へ飛ぶ航空機を見つけ、レンズを機械に向け、シャッターを 1 2 回押して、手でフィルムを巻いた。その小さい「宇宙船」を囲んでいる赤い輝きは緑がかかった光に変わって上へ登っていった。それはますます明るさと輝きを増しながら上がっていった。そして、青っぽい色に変わった；航空機はそれが始まったより多くの空気を吸い込んでより輝き、輝きを増した。

104

次の写真は、一連の 5 枚とられた最初の写真である。

この連続写真で、デイビッドの家の前で造られた 4-足のポートから飛び去る間の、物体の変化を見ることができる。

これは、1977 年夏の終わり、ほぼ 11:00p.m に起こった、。

物体の周囲の変った輝きと物体が空の方へ向かって動く角度に注意しなさい。

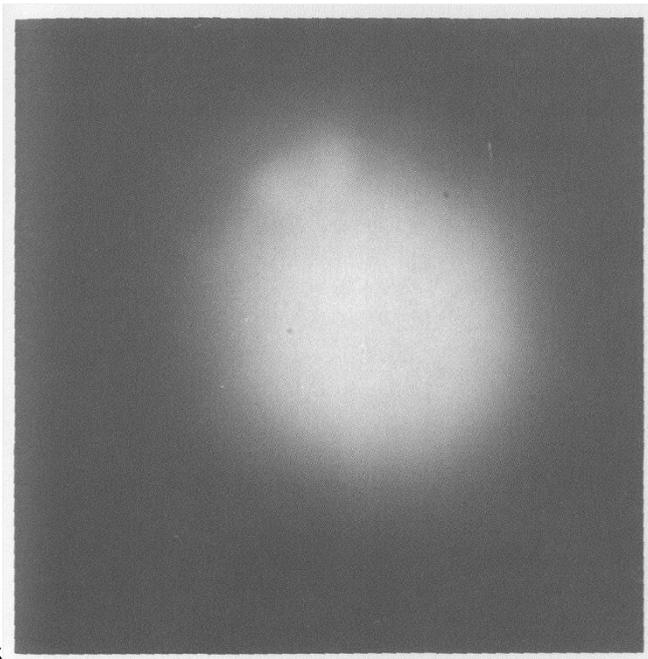
デイビッドは彼の家と、彼の家の周囲の明りが消えると言った、そして、音は聞こえなかった。

また、デイビッドは飛びたつた物体のまわりの色の変化に注意した。

デイビッドは写真をとるのに白黒のコダック・ブローニーカメラを巻き上げるために、6～10 秒間必要だった。

デイビッドには、二度と彼のプロトタイプを決して見なかったことと、その機械の中の磁石を失ったという事実以外に、異常な効果による混乱はなかった。

写真 1



105

写真 2

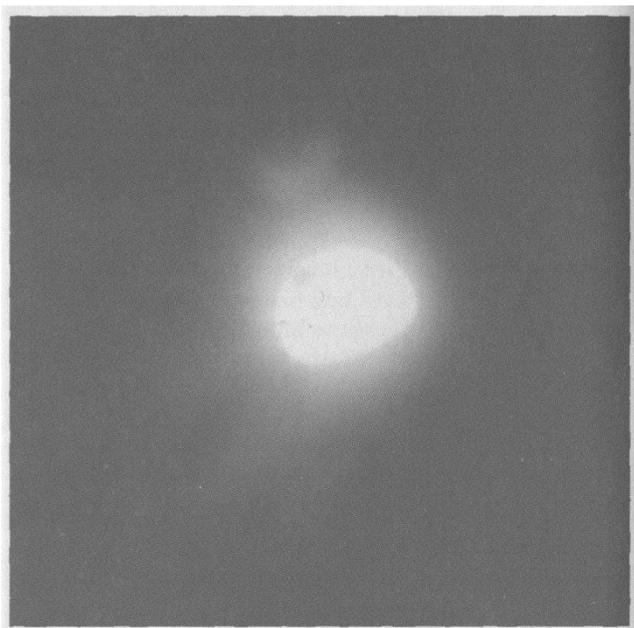
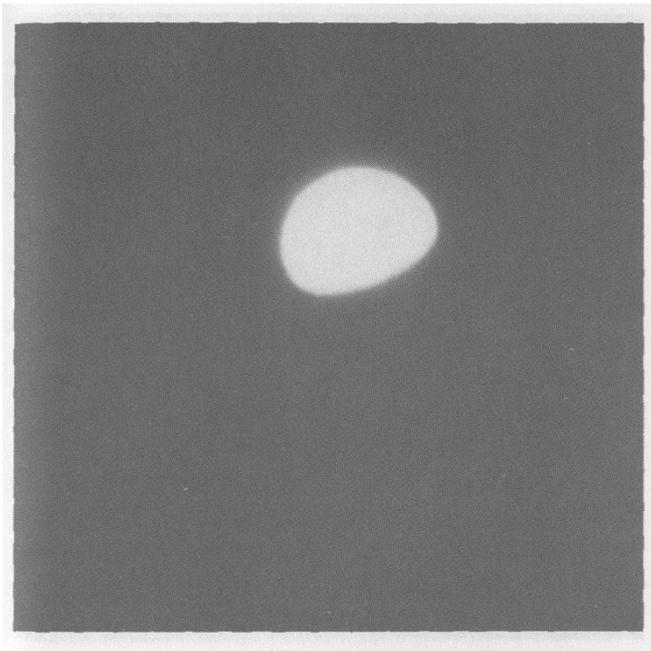


写真 3



107

写真 4

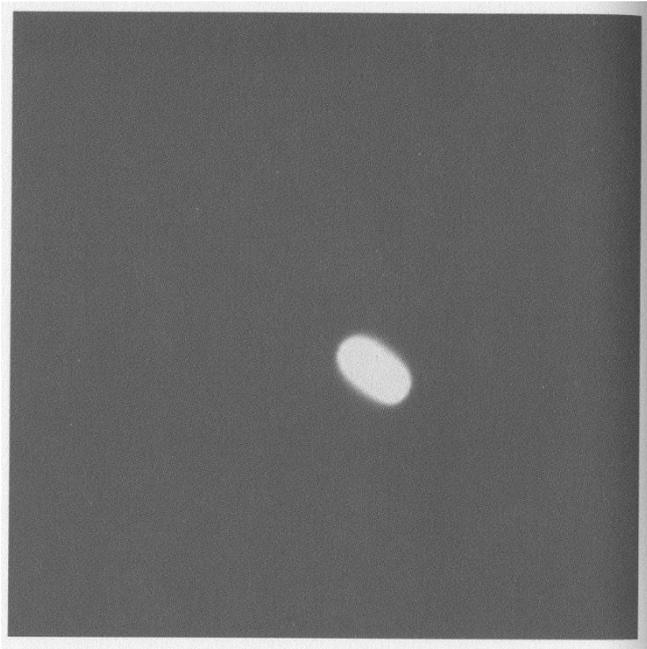
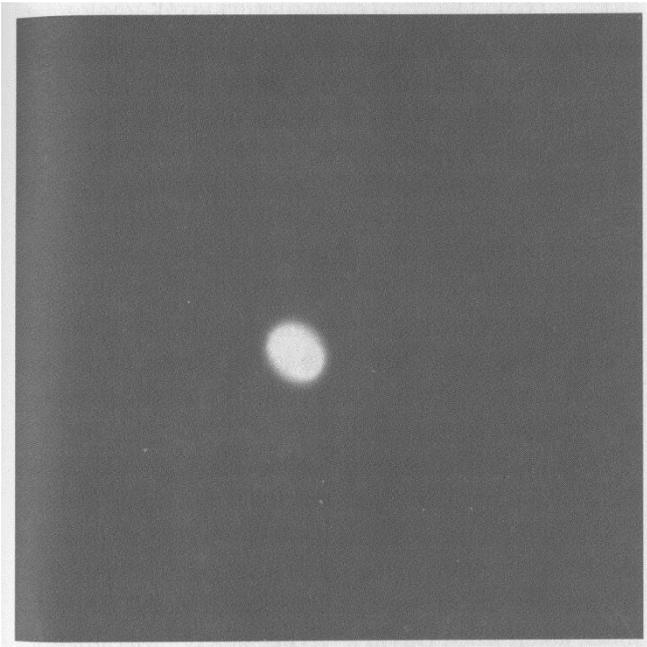


写真 5



彼の機械が彼の視界から消えたとき、デイビッドは家に走って戻って、Maple リッジとアボッツフォードの空港に電話をかけた。そして、彼らが彼らのレーダーで未確認飛行物体を見ることができたかどうか尋ねた。

当番の人々は、彼らのレーダー装置 **carridor** の中に何も見ることはできなかった。

デイビッドは、とても失望した。

「これを造るのに必要だった全ての時間と」磁石の 3000 ドルの価値は、夜空に飛んでいった！

そして、彼には近くに目撃者さえいなかった。

と、彼が庭のまわりで地団太踏んだぐらい、彼は苛立った。

近所には、その夜、電気が止まっていた。



機械が空に姿を消した 2、3 週後に、ハーメル家に RCMP は来て、内外を、見た。

最後に、「何も、ここにはない！」と、役員の中の 1 人が外に叫んだ。デイビッドは、パトカーが急いで帰っていくのを見た。

「もちろん、ここには何も無い。

私は、とんでもないことにすべてを失った。」、その時の彼のカメラのフィルムがプリントされた結果で見ると、「宇宙航空機」によって不思議なエネルギー・フィールドまたは放射線が引き起こされているという理論を支持していた。

最初のショット（デイビッドの「空飛ぶ円盤」が持っていかれた時の、家にまだ近いショット）は、明るい光で全部のフィルムが露光されていた。

他のショットは、二重露出のように見えた。

しかし、およそ 7 ショットはとれていなかった。

その時彼は、何をすることができたか？

A と、On とアルカンは、依然として彼が乗客を運ぶために箱舟サイズの航空機を建造することを期待していた。

111

そのゴールは長い道のりであった、そして彼には助ける誰もいなかった。

しかし、デイビッド・ハーメルは、いくじなしでなかった。

磁気効果をコントロールができないならば、重さが速度になる原則に仕事を集中させた方がよいとデイビッドは、結論した

彼は、新技術を学ぶことの難しさに関する彼の哲学的見解を取り戻した。

「歩き始めることができる前に、這うことを学ばなければならない。」とかれは機械のモデルを造ることを続けた。そして、磁石のいろいろな構成をためした。（それらに耐えるよう

に別に続けた)

ボウリング・ボールがどのように、最も効果的に振動することができるか方法をためし、そのうえ実験し、必要な磁場の形にした。

彼は、また、磁石によって装置部分がボールより上に「浮く」原因となることがわかった。



これらの年の間に、新聞切り抜きを見て、何百人もの訪問客は、通行の途中でハーメル家を見つけた。そのなかにはドイツから3の代表派遣団もいた。1人の女は、彼女自身がアルバート・アインシュタインの姪だとわかった。

「彼らは疑問をなげかけては問題を難しくする」と、大部分の訪問客についてデイビッドはコメントした。

「人生は、難しいものではない;

それは、適切に仕事をすれば簡単だ。」デイビッドは造ろうとしている装置を、エレガントにシンプルに見ていた。

連続的運動は単に機械的效果であった、そして、エネルギーは磁気効果によってその中につくられた。

112

彼は「私は正しいものを得るまで機械を造り、また機械をつくり、機械をつくりつづける。」

と、誓った。「それは、私が知っている唯一の方法である。」

近年まで4000ドル以上を磁石に費やしたあと、彼とノラは実験費用を払うために生活を快適にする余分なものは買わずに済ますと固く決心していた。

サマータイムでは、時々1日の労働時間は18時間に達した。そのときは、夜になるのは遅く日光は長く空にあった。

何度も、彼は受け皿を測り、再測定した;

これは正確でなければならなかった。

モデルの不完全な部品は、次のモデルを作製するのに用いられた。

彼はある日振り返って、前の社会生活の全てを犠牲にしたと理解した一。

「私の興味の全てはこれを成し遂げることである。』」何年も彼は多数の科学者に手紙を書き、大学が、プロジェクトを手伝うよう努力をした。

彼はNASAに、宇宙飛行士が宇宙にいる間、彼の磁気装置をテストするようお願いした。

それらの全ての手紙はくずかごにファイルされたか、「変人」ファイルに入れられたのだろうか？

しかしたとえ彼らが有能でなかったとしても、当局の一部は興味を起こしたようだった。
ある日、黒いリムジンは、車道を進んで来た。

5、6人の男性が、車両から飛びおり、ドアへの階段の上へずかずか歩いてきた。
彼らはドアをロックすることなくデイビッドの許可を得ることなく押し開けて、入った。

彼らは、明らかに、A と、アルカンと On へは関係のない人々であった；

これらの宇宙人達からのメンタルな連絡もなかった。(エーテル的特性もなかった)

彼らはシアトル (ワシントン) の近くのボーイング航空機会社の従業員と特定されるバッジを示した後、彼らはハーメル邸を押し破って、最小限のコミュニケーションだけであたりを見まわした。

それから、男達のうちの1人は、別の部屋に入って電話を使った。

「彼は、何も持っていない。」と、デイビッドは彼が言うのを聞いた。そして説明なしに急に帰っていった。

デイビッドは、下の道で車が運転されるのを見た。

「何だってここにはないだって？

5 トンの機械を造るまで、待ってろ。

彼らはそれが決して飛ばないとしてもエネルギーの発生を見ようとしていた！」、デイビッドは彼が言ったことをいつも通り、考えていた。

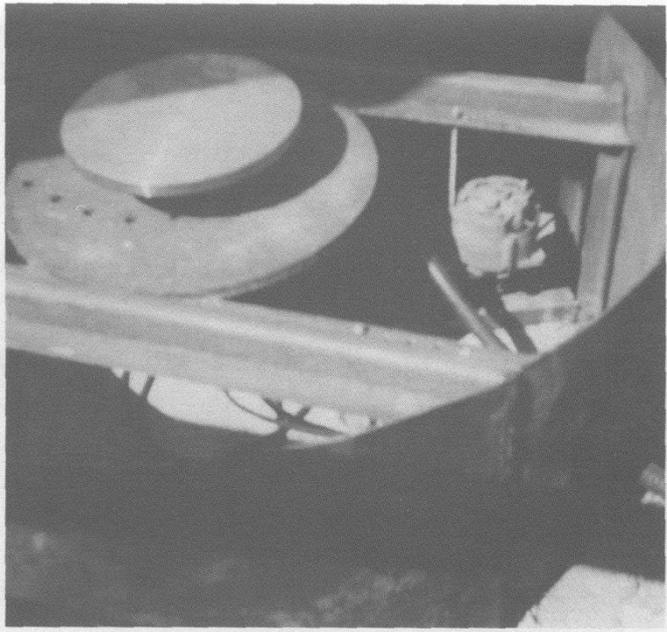
彼の次の計画は、具体的なプロトタイプを造ることだった。

それは飛ばないとしても、彼はそれがエネルギーの転換を示すことを望んだ。

写真

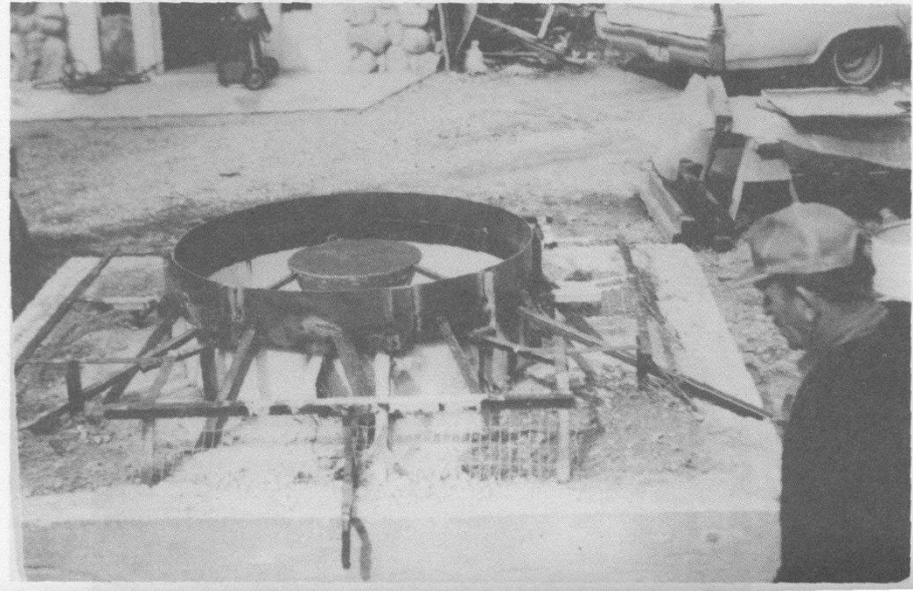


「重さがスピードになる」マシンのプロットタイプ
下層部分の内部の写真

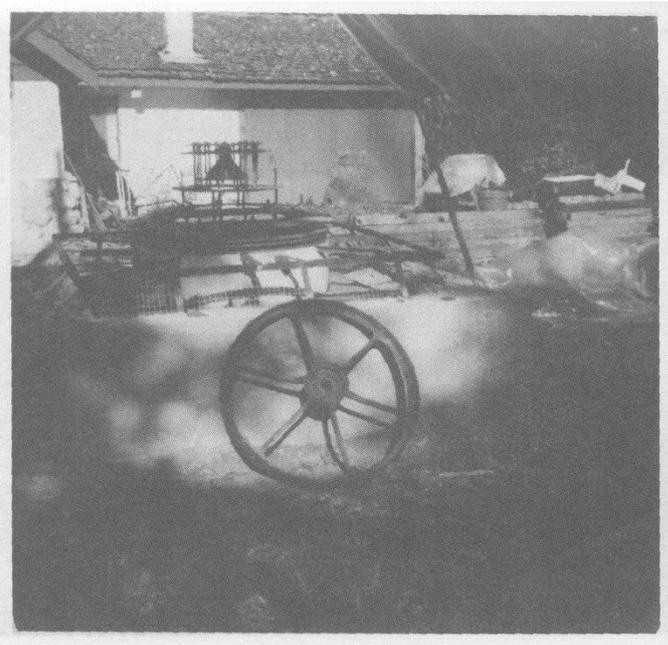


写真

中心のシャフトのベルトで運転する最初の発電機装置を含む「速度への重さ」下層部分の内部。



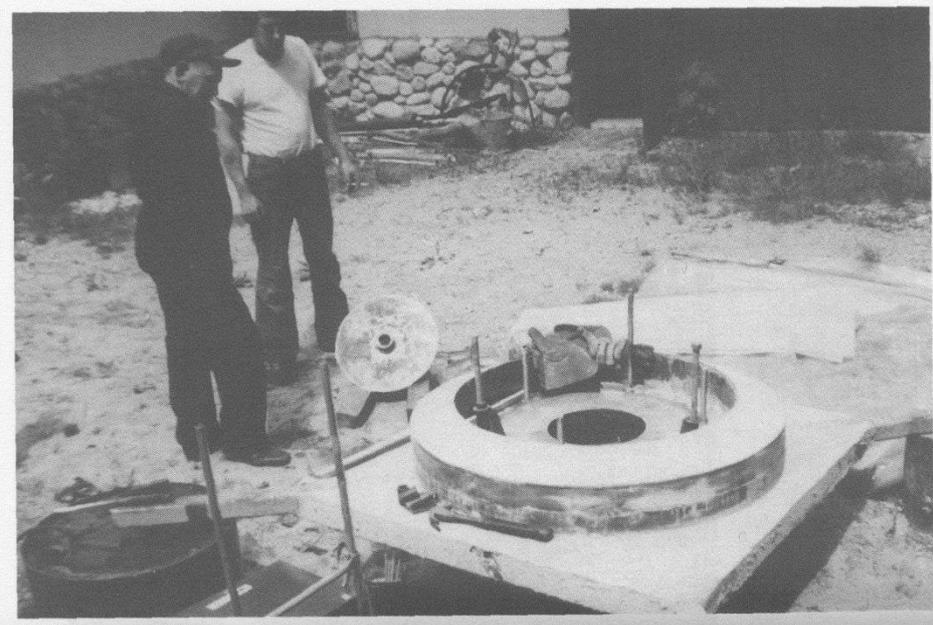
セメントで囲む前の「速度への重さ」プロトタイプの下層部分



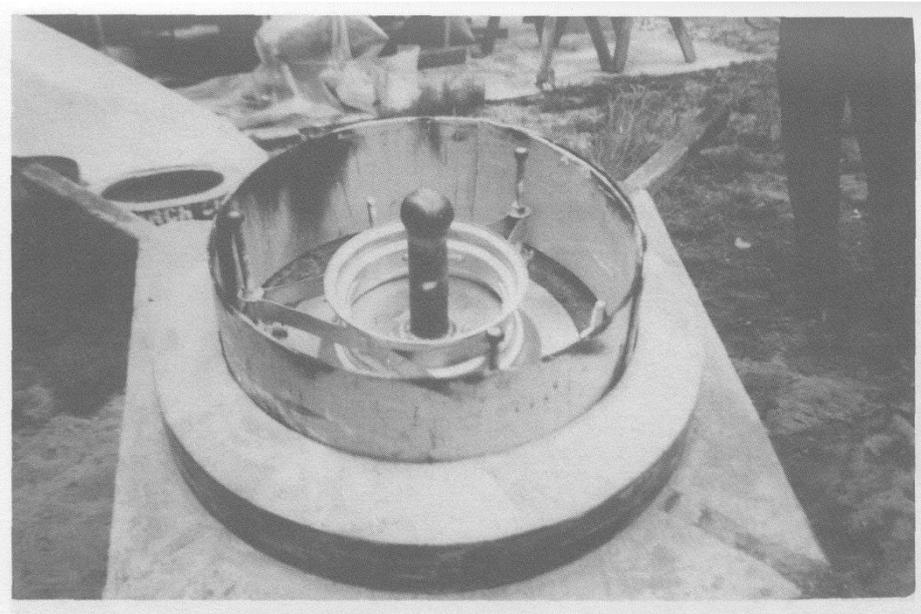
セメントで囲む前の「速度への重さ」上部側面図。

注：

トップの円錐形の物は蝶」のために、ボールを持つことが要求される」。



内部の同位元素運動のない「速度への重さ」の上部をさかさまにして見る」。



「speed への重さ」プロトタイプの上をさかさまにして見る。

注：

中心のシャフトは、「同位元素線」の一部である



彼の「速度への重さ」プロトタイプセメント上部を持ち上げるためのデイビッドの家の前のクレーン・トラック。



完成した「速度への重さ」の上部側面図、
適当な調整のためのテストのために下部の上に立っている。



デイビッドの
プロットタイ
プの設計図を
見入る人達の
クローズアッ
プ

長い間のデイビッドのプロジェクトで、注意力とエネルギーで印象付けられたこのグループの有力な 30 人の助けを彼は心に描いていた

129

彼は、全ての技術的問題を解決して、船を建造するのに長くかからないように、すべて自発的な援助を期待した。

しかし、後になると、彼は買い手の意図を怪しんだ。

おそらく、買い手はデイビッドが急には重い機械を満載できないので、コンクリートのモデルを残していくと思ったのだろう。

彼は、デイビッドが宇宙船を建造し続けるにはあまりにひどく落胆すると思ったのだろうか？

「この場所から出るのに、あと 3 日与える」と、買い手は言った。

デイビッドは、買い手が資産よりプロトタイプを望むかどうか疑問に思っていた。

デイビッド・ハーメルが決断力を、決して甘くみてはいけない。

彼はひそかに油圧装置がついた 5 トントラックを買い、彼が関係する多くのヘルパーをできる限り組織した。

クレーンとオペレーターは手配された。そして大きなトラックに、デイビッドの重い機械の上部をのせた。

彼は、1980 年 12 月 1 日トラックを彼らの家具と道具類と他の重い用品で全て満たした。

その翌日、彼自身とノラの旅行のために 18,000 ドルの自動車住宅を買い、その中に彼らの冬の衣類を載せて、トラックのドライバーを見つけた。

ドライバーは、車で東部オンタリオまで 2,500 ドルで行く気があった。

12月19日に、暗い暗雲は空に集まり、トラック・ドライバーは道が確保されることを願っていた。

二人は、Maple リッジにさようならを言って彼らの小さなキャラバンで東へ向かった。

目くるめく吹雪のなかを1週間以上運転することは、まるで白い竜巻の目の中を運転するかのようだった。

日中の短い冬の光の間でさえ、雪の恒常的な集中砲火をあびせる雲によって視野は暗くなった。

デイビッドとノラのバンが続く走行中の大型トラックの後は、風の余波で雪片の突風が、渦巻いた。

デイビッドは、渦巻く雪の中をヘッドライトで照らして透かして見ようと努力した。

一方、彼が運転する間、ノラは彼女の全ての明るい内部の力を振りしぼって、デイビッドが起きているのを手伝わなければならなかった。

それは、厳しい10日間の旅行であった。

彼らはブリザードの中を問題なく旅行することを伝え双方をともに安心させるかのように、小さい緑の葉が彼らの生活に再び現れた。

ガソリンのために立ち寄ったとき、デイビッドは道で飲むために彼女に魔法びんをいっぱいにする量のコーヒーを買った。

彼女のカップにそれを注ぐと、緑の葉がコーヒーの上に浮かんだ。

また旅行を通して、2人がレストランで立ち止まって、食べ物を注文すると、彼女のお皿の上に葉が現れた。

ウェイトレスは、現象に煙に巻かれた。

「私が再びその船に乗ったら、これらの葉の正しい処理方法を教えてもらうんだが」と、デイビッドが言った。

「これらは健康に良いにちがいない、しかし、私はあなたを助けるためにこれらをどうすべきかわからない。」、最終的に2人がオンタリオに着いたとき、トラックを運転した男と握手して、モーテルに入った。